

横浜市立 嶮山小学校 平成27年度 学力向上アクションプラン

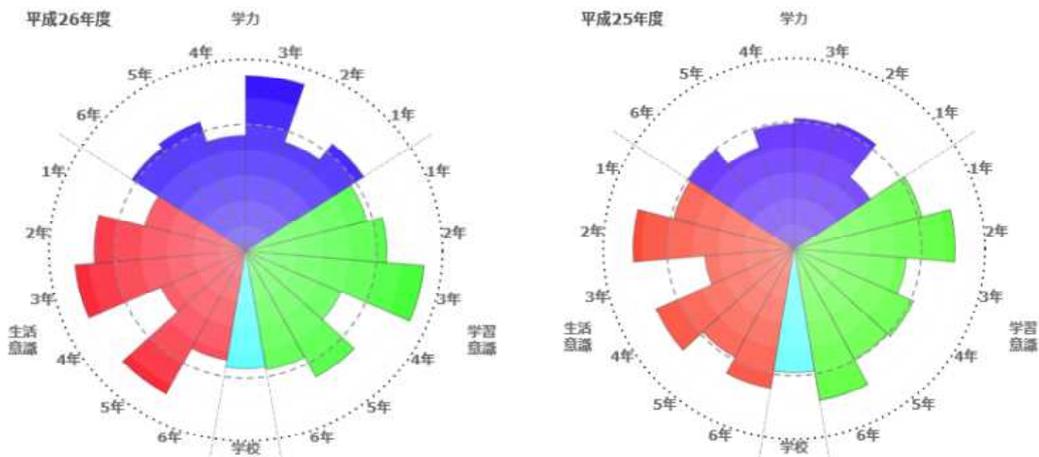
1 学校の状況と地域の実態

- (1) 全学年において、子どもたちの一日の家庭の勉強時間30分以下が4割以上、一日の読書量10分以下も4割以上と、家庭における学習環境が十分には整っているとは言えない。
- (2) 教員は授業改善に向けて日々意欲をもって取り組んでいるが、経験の有無にかかわらず、教員として、一層基礎的な指導技術を身につける必要がある。
- (3) 地域コーディネーターを生かし、学校・家庭・地域との連携による学習を推進する努力をしている。

2 今後3年間の方向（中期学校経営方針）

- 確かな授業力に支えられた課題解決学習の具現化により、基礎・基本の定着を目指します。
- 一人ひとりの児童のニーズや個の実態に合った、楽しく分かりやすい学習を実施します。
- 児童がいない状態での研究・研修時間を確保し、研究、研修の内容を充実させます。
- 学校と家庭との連携により、家庭学習の習慣化を図るなど、保護者の学校への満足度アップを実現します。

3 横浜市学力学習状況調査等からの平成27年度の実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

学校全体の学力は学年によってばらつきが出てきている。前年度と比較をすると、横浜市平均を下回っていた1・4・5年生いずれの学年も上昇傾向が見られ、高学年においては、市平均を上回った。4年生に関しては、生活意識や学習意識も高くなく、学力にそれが顕著に現れているようである。今後の取り組み方に工夫が必要である。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：学年によって力の身に付いている観点や身に付き具合が異なっている。強いて言えば、「読むこと」の力はどの学年も市平均をほぼ上回っている。
- 算数科：学年によってばらつきがあるが、観点「知識・理解」「技能」が市平均を下回っている学年が見られ、スキルが不足していると感じられる。
- 社会科：どの観点も横浜市平均を上回っている学年と下回っている学年があり、下回っている学年では特に教科意識が低く、授業改善が必要である。
- 理科：全ての観点で市平均を上回っている学年はない。特に、どの学年も観点「知識・理解」が低い結果となっている。基礎基本の定着を図る必要がある。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学校全体としては、学力は改善傾向にあるとみられる。学習意識や生活意識の経年変化も合わせてみると、市平均を下回っている学年はその学年の特徴的なものと思われる。いかに学習に意欲的に向かわせるか、児童の実態に沿いながら主体的な学びの構築を追求していきたい。

高学年になるにつれて学習への取組や学力において二極化が現れてきている兆しもある。「授業導入や展開の工夫」「個に応じた指導の充実」を継続し学力向上に努めたい。

4 平成27年度 目標と具体的方策

平成27年度 目標
自分の考えをしっかりともち、問題解決ができる子の育成

(1) 学校組織としての共通の取組

- 問題解決能力の育成
・単元の系統性や身に付けさせたい力の明確化 ・問題解決能力を育てる指導法
- 豊かな語彙力の充実
・週2回の朝読書の定着 ・はまっ子読書ノート等を活用し、卒業まで100冊読破を目指す
- 基礎的・基本的な知識・技能の習得
・宿題で毎日音読練習 ・各学年の新出漢字は7割以上、四則計算は7割以上取得

(2) 学年としての取組

2 学年

- 問題解決能力の育成
・具体物を操作しながら課題に取り組む。
・様々な視点で読む活動を充実させる。
- 豊かな語彙力の充実
・読書記録をつけながら読み、気に入った本を紹介する。
- 基礎的・基本的な知識・技能の習得・宿題で毎日音読練習
・毎日、計算・漢字練習に取り組み、定着を図る。

4 学年

- 国語では、説明文を、はじめ・中・終わりのまとまりでとらえ、筆者の考えをもてるようにする。
- 算数では、既習事項を生かして課題を解決するとともに、自分の考えと友達の考えを比較し、よりよい方法で解決する力を身に付ける。
- 理科では、生活経験を生かして、予想を立て、実験結果から、なぜそうなるかを考えるようにする。

6 学年

- 理科では、実験・観察を多く取り入れ、課題に対する予想と考察を自分なりに考える時間を多くとる。
- 教科にかかわらず話す活動では、互いの考えの違いを大切にしながら、発言内容や発言回数に注意して話し合うことができるようにする。
- 算数では、問題に対して落ち着いて取り組み、わかりやすく考え方を伝えられるようにする。

1 学年

- 日常生活において、感じたことや気付いたことを朝の会などで話したり、絵や歌、身体表現を用いて発表したりして、お互いの表現の良さを見つけて伝え合い、よりよい表現の仕方を身につける。
- 算数では、言葉・数・式・図などを用いて考えたり、説明したりし、互いに自分の考えを表現し伝え合う学習活動を充実させる。
- 毎日の音読、国語や算数の宿題プリントなどを利用し、基礎基本の定着をめざす。

3 学年

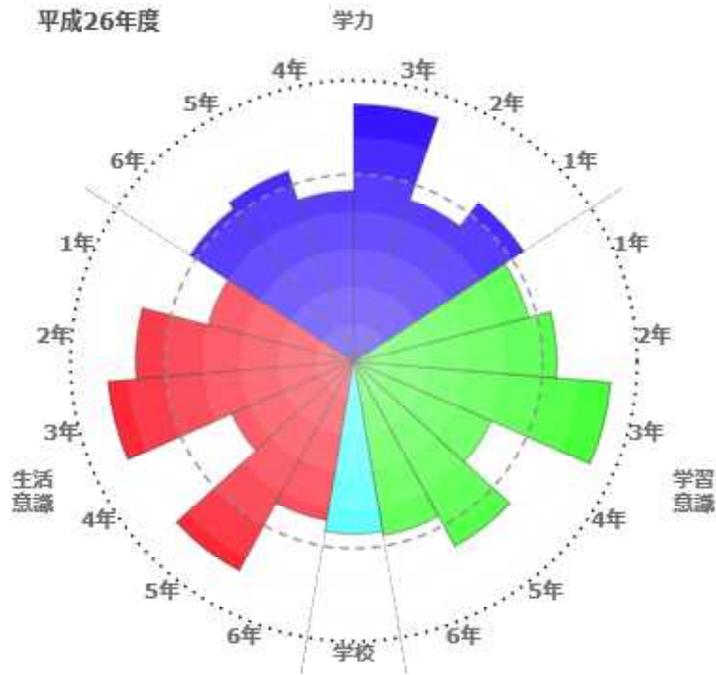
- 算数の授業では、絵や式や言葉を使って説明できるように指導していく。
- 国語では、学習教材をしっかりと読むこと、新出漢字をスキルなどを用い繰り返し習得させる。
- 家庭学習の習慣をしっかりと身につけさせるため、毎日プリントを出し、自主的に学習できるようにする。

5 学年

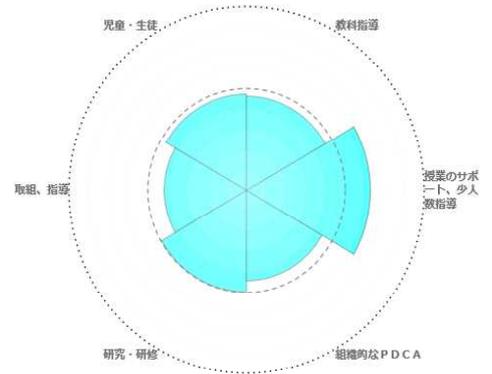
- 算数の少人数指導では、子どものつまずきや困り感を見とり、習熟度に合わせた課題を設定し、一人一人が達成感を得られるようにする。
- 日々の学習や学級指導において、書いたり話したりする活動を多く取り入れ、語彙を増やすと共に、目的に応じて表現できるようにする。
- 漢字や計算は、スキルタイムを活用し、継続的に学習テストを行い、基礎基本の定着を目指す。

スキルタイムの
有効的な活用
基礎的・基本的な内容の
定着とは、「確実に習得する
こと」と捉える。
「確実に習得すること」と
は、学習して「分かったこと
が「使える」ようになること
であると考える。
そのため、火曜日と金曜
日のスキルタイムを「分かった
ことを定着させる時間」と設定
する。各学年の実態に合わせて
工夫を図る。

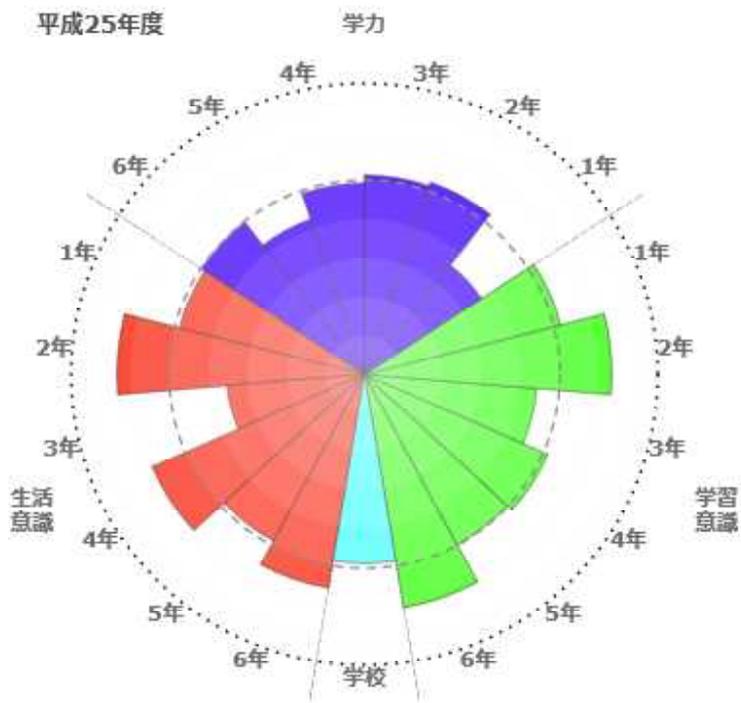
平成26年度



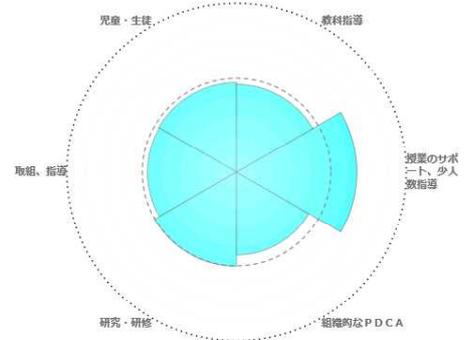
平成26年度 学校質問紙



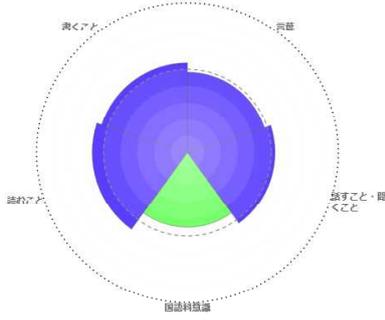
平成25年度



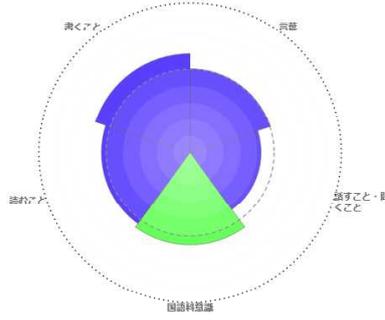
平成25年度 学校質問紙



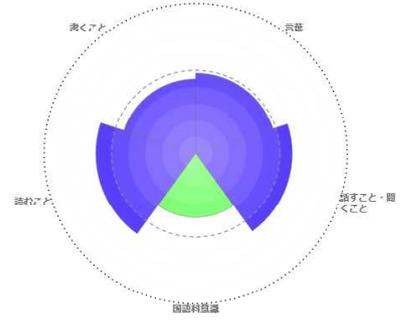
平成26年度 小学校6年 国語



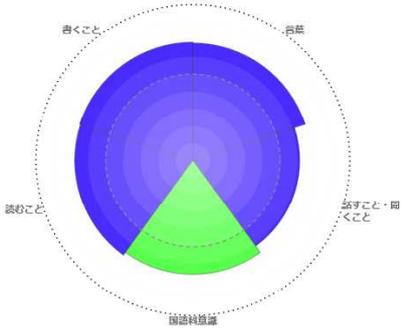
平成26年度 小学校5年 国語



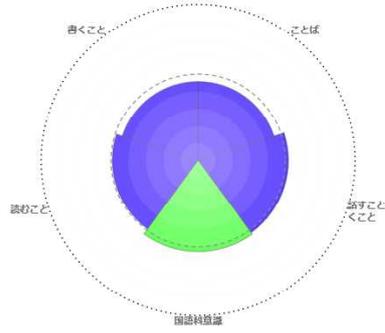
平成26年度 小学校4年 国語



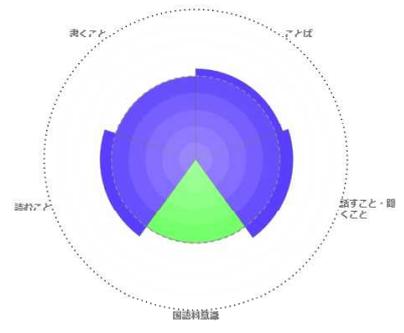
平成26年度 小学校3年 国語



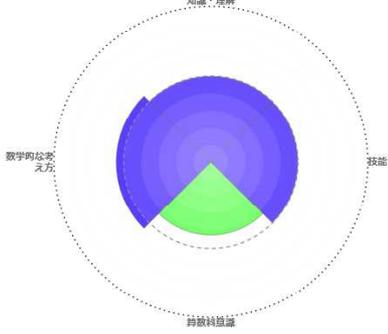
平成26年度 小学校2年 国語



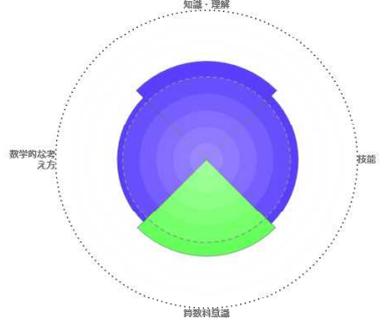
平成26年度 小学校1年 国語



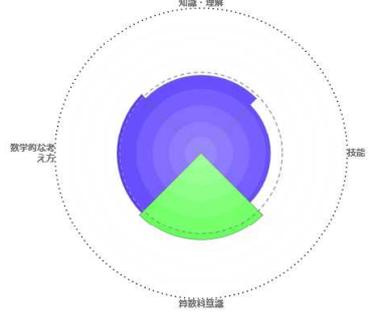
平成26年度 小学校6年 算数



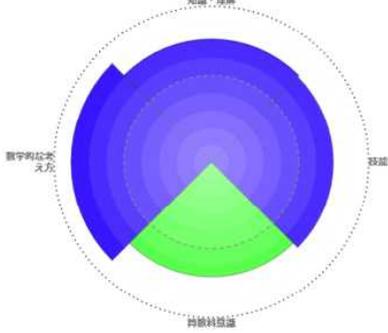
平成26年度 小学校5年 算数



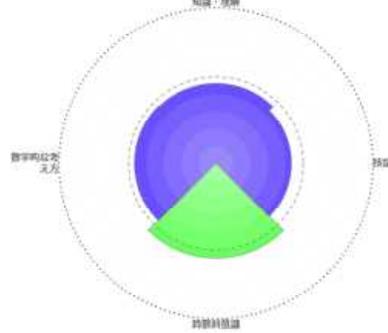
平成26年度 小学校4年 算数



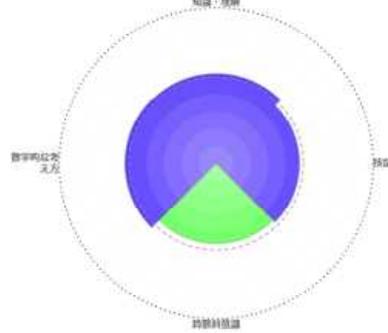
平成26年度 小学校3年 算数



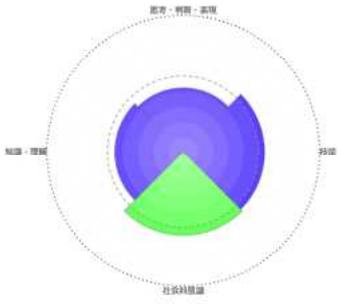
平成26年度 小学校2年 算数



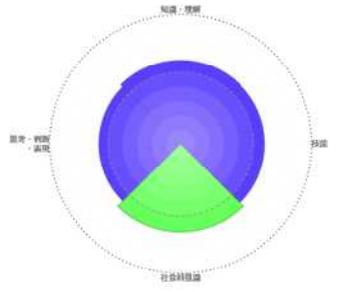
平成26年度 小学校1年 算数



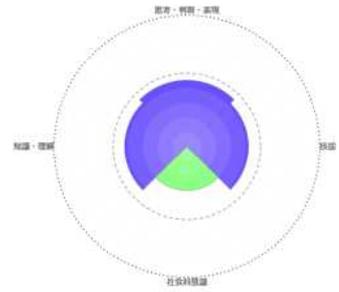
平成26年度 小学校6年 社会



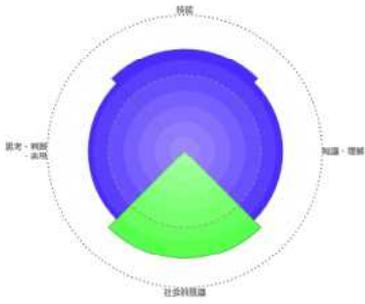
平成26年度 小学校5年 社会



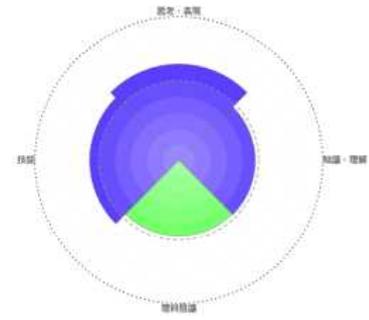
平成26年度 小学校4年 社会



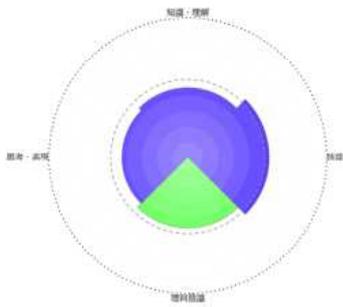
平成26年度 小学校3年 社会



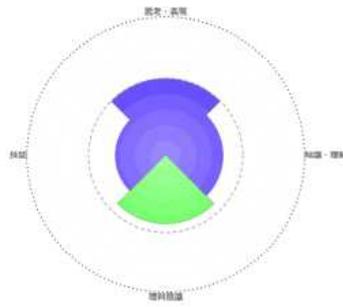
平成26年度 小学校6年 理科



平成26年度 小学校5年 理科



平成26年度 小学校4年 理科



平成26年度 小学校3年 理科

